

# シルバー やまがた

第153号 令和6年1月1日発行 (公社)山形市シルバー人材センター  
正会員数1,251名 賛助会員 33個人・64団体(11月末現在)



雪の観音堂 (滝山2地区 渡部武三さん 撮影)

## — 内容紹介 —

- |    |                               |      |                    |
|----|-------------------------------|------|--------------------|
| P2 | 新年のご挨拶 (山形市長)<br>新年を迎えて (理事長) | P5   | 令和六年 年男・年女の方から     |
| P3 | 安全就業推進大会<br>地区班長と理事との意見交換会    | P6~7 | 会員のひろば             |
| P4 | 事業所訪問を実施<br>事業普及啓発活動を実施       | P8   | 文化祭出展作品から          |
| P5 | 女性部会だより                       | P9   | 就業会員を訪ねて<br>新入会員紹介 |
|    |                               | P10  | 事務局だより             |



## 新年のご挨拶

山形市長 佐藤 孝弘

新年、明けましておめでとうございませう。

公益社団法人山形市シルバー人材センターの会員の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

少子高齢化や人口減少が進展する中においては、将来にわたり活力ある地域社会を維持していくためには、高齢者の方々が社会を支える大きな力となり、就業等を通して社会に参加していただくことがますます重要になっております。

こうした中、貴センターにおかれましては、会員の皆様方の豊富な知識や経験・技能等を活かし、就業やボランティア活動など多岐にわたる事業を展開され、地域の活性化と高齢者の社会参加による健康づくりと生きがいの創出に多大なるご貢献をいただいております。ことに、厚く感謝を申し上げます。

山形市といたしましても、「健康医療先進都市」「文化創造都

市」をまちづくりのビジョンに掲げ、自らの能力を活かしながら、住み慣れた地域とともに支えあい、健やかに生きがいをもって暮らせるまちづくりを基本理念の一つとして、市民の健康寿命の延伸のための様々な施策を推進しております。

こうした取組を着実に推進していくためには、高齢者の方々が自らの経験や能力を活かしながら活躍できる機会を提供する貴センターの果たす役割が、ますます重要になってまいります。引き続き、本市の施策推進にお力添えを賜りますようお願い申し上げますとともに、会員の皆様方には、今後ともご壮健にて、生涯現役で活躍されますことを心よりご期待申し上げます。

結びに、公益社団法人山形市シルバー人材センターのますますのご発展と、新しい年が皆様にとりまして素晴らしい一年となりますよう心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。



## 新年を迎えて

理事長 長瀬 洋男

謹んで新春をお祝い申し上げます。会員の皆様には、健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年中は皆様には格別なご理解、ご協力を頂き、厚くお礼申し上げます。

昨年五月に新型コロナウイルスが第五類に移行し、ようやくコロナ禍前の日常にもどりつつあり、当センターでも、約四年ぶりに世話役会や地区研修会の開催をはじめ、理事と地区班長の意見交換会、安全講習会、会員募集活動、清掃奉仕活動、ブロック研修会等、これまで順調に事業を実施してきております。

しかし、昨年秋以降、国内各地ではインフルエンザが流行の兆しを見せており、さらに国際社会では、ウクライナ戦争やパレスチナ紛争の終結の見通しも立っておらず、混乱が続いております。

全国的に少子高齢化が進んでおり、山形市でも約三割の市民が六十五歳以上の高齢者になっており、さらに出生率の低下についても危惧されております。

生産年齢人口が減少し、定年延

長や、コロナ禍の影響等で様々な業界で人手不足となる中、全国的に会員が増えない状況が続いております。当センターでも近年会員数が伸び悩んでおり、全会員が協力して「一・一（イチ・イチ）運動」に真剣に取り組み、会員の拡大を図ることが喫緊の課題です。

また、昨年一〇月からインボイス制度が実施され、今後センターの税負担が増加し、軽減税率がなくなれば長期的に経営を圧迫していくことが危惧されます。さらに、令和六年秋頃にはフリーランス保護法の施行が予定されており、今後、請負契約への影響も発生するなど、シルバーを取り巻く社会環境は大きく変化しております。

今年の干支は「甲辰（きのえたつ）」、小さな固い芽が成長して、龍のように成長していく縁起のいい年とのことです。当センターも、新しい時代の変化に対応しながら、着実に前に進んでいきたいと考えております。皆様のご健康とご多幸をご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

# 山形県シルバー人材センター連合会 令和五年度安全就業推進大会

安全就業推進委員長 高橋 眞一

去る十月十一日、山形県シルバー人材センター連合会主催の「安全就業推進大会」が遊学館で開催されました。

安全就業優良シルバー人材センターとして県内四カ所のSCが表彰されました。次に、安全就業に関する標語の入選発表があり、山形市SCから二名が表彰されました。

## 優秀賞

「事故ゼロ」は

一人ひとりの 心がけ

南沼原地区 齋藤 知行

## 佳作賞

だいじょうぶ!

慣れた油断が 事故招く

第二地区 鈴木 靖子

引き続き、山形県作業療法士会副会長の奥山典子氏より、「地域でいきいきと働き続けること」と題して講演がありました。

## ◎社会参加、働く理由

収入、社会との繋がり、健康維持

## ◎仕事に生きがいを感じる理由

健康の維持、社会への参加、人の役に立つ実感が得られる

## ◎安全に働きつづけるには

健康の状態を常に把握

## ◎人は作業することで元気になれる

日常の身の回り、地域、生産的楽しみ、生活を維持する

## ◎フレイル対策三つの柱

栄養（バランスの良い食事と口の健康）、身体活動（楽しく運動）、社会参加（就労、ボランティア、社会貢献）

などの講話内容でした。大変参考になる話を聞き、元気に働けることは素晴らしいことだと再確認されました。最後に「安全就業宣言」として、安全はすべてに優先すると

の基本理念を再確認し、事故ゼロに組織一丸となって取り組むことを宣言して大会を終りました。

※補足ですが  
当SCでは、今年度事故ゼロで推移していましたが、残念ながら十月中に事故が二件発生いたしました。これ以上事故の発生がないように、会員皆様にはこれからも細心の注意をよろしくお願いいたします。

# 『班長会』開催されました!

総務部会長 平山 尚

令和五年度の「地区班長と理事との意見交換会」が十月十九日に開催されました。今回はコロナ禍で四年ぶりの開催となり、地区班長も担当理事も多くの方が新しくなり、気持ちも新たにスタートしました。

現在、山形市シルバー人材センターは、二十八の地区班構成で運営しており、各地区ごとに班長・副班長・組長を配置し世話役として活動して頂いております。

地区班は会員相互の連帯意識を深め、会員間の連絡体制を整えることを目的にしています。

そして世話役は、会員の状況や課題の把握、センターとの連絡・情報交換を担っております。

この他会報の配布・年会費の集金・各行事の取りまとめ等大変ご苦勞の多い役割を果たして頂いております。

さて当日の会議では、各専門

部会・事務局より現状の活動報告を行い、その後に各地区班の課題や要望について意見交換がおこなわれました。会員数の減少や地区会合の実施方法・就業状況などの課題が報告され、今後の検討課題の認識を共有しました。

尚、十一月より地区研修会が実施されています。是非多くの会員の皆さんに参加して頂きコミュニケーションを図り、より良いシルバー人材センターを作って参りましょう。



## 事業所訪問を実施

事業部会長 結城 正夫

新型コロナウイルス感染症が第五類に移行され、事業所訪問が通常通り出来るようになりました。就業先のご了解を得て、

事業部会員二名と事務局職員一名の計三名で、年三回の九カ所を訪問しています。今回は九月に三カ所の事業所訪問を実施し、十月と十一月にも訪問して就業会員との面談をすることが出来ました。

訪問した際は、次のことを短時間で伺いをして意見交換を行っております。

- ① 就業先での仕事の内容や会員同士の協力体制
- ② 現在の健康状態と定期的に健康診断を受診しているか
- ③ 問題点や要望などはないか
- ④ 現在、困っている事はないか

多くの会員の皆様は仕事にやりがいがあり、就業先での信頼感や健康状態の維持に心がけており、生き生きと頑張っている

様子など、常に前を向いているのが印象的でした。ご協力をいただいた会員の皆様に感謝申し上げます。

今後とも体調管理に留意され安全就業を願っておりますので、ご協力を宜しくお願い致します。



## 事業普及及啓発活動を実施

広報部会長 齋藤 英夫

十月のシルバー事業普及啓発促進月間に伴い、次の活動を実施しました。

### ・役員による街頭啓発活動

十月十七日(火)十時からイオン山形南店、山形北店で理事長はじめ理事、専門部会員、委員会会員等の総勢三十四名で実施。ご来店の高齢者を対象に事業のPRと、会員募集のチラシ約千枚を配布しました。

山形新聞社の取材も入り、大きなPR活動となり今後の会員増加が期待されます。

### ・会員による清掃活動

十月二十五日(水)、十時から山形駅西地区の街路清掃活動を実施しました。八十二名の会員が四班に分かれ、歩道沿いの清掃活動を行いました。また、各地区研修会の会場付近の清掃も行っています。

### ・その他の活動

① 十月十五日〜十七日まで、互助会主催文化祭・女性部会の創作品頒布会でのPRやパネル展示による事業活動の紹

介と会員募集を実施。(入場者数二百十四名)

② 市役所市政記者クラブへの事業啓発活動内容についての情報提供。

③ 山形県シルバー人材センター連合会での安全就業推進大会へ参加。



# 女性部会だより

## 女性部会で「講習会」を実施

女性部会副部会長 山泉 晶子

令和五年九月十九日に、女性

会員二十三名に参加いただき、山形西部地域包括支援センターの職員三名と前女性部会長の塩野美智子さんを講師にお招きして『これからの人生を楽しく生きるために』カードゲームで考えよう」と題した講習会（コミサロン）を開催しました。

始めに、外部講師より厚生労働省が普及啓発している「人生会議」について話を伺った後、受講者が四つのグループに分かれてトランプゲームの『ババ抜き』を行いました。

『いっぶくカード』という名前のこのトランプには、一枚ごとに「好きな温泉あつか？どごいいや？」「家の人以外で何でも相談できる人いだが？」などの質問が一つ書いてあり、隣から引いたカードと手持ちのカードの数字がそろって捨てる時に二枚のうちどちらかの質問に答える。最後にババを持っていた人は今日の感想を述べるという

ルールです。

初対面の人前で話をする事にはかんでいた人も講師の上手な導きで直ぐに打ち解け、愉快な話や失敗談に大笑いしたり、こんな話あんな話に共感したり、感心したりして、人の話を聞く楽しさと自分の思いや考えを言葉にすることの大切さを再確認しながら楽しくゲームが進み、各グループが大いに盛り上がる中での名残惜しい閉会となりました。ご参加いただいた皆様と講師の方々にこの誌面をお借りして感謝と御礼を申し上げます。ありがとうございました。



# 令和六年 年男・年女



令和六年、今年は辰年です。今年の年男・年女の会員さんから抱負などをお聞きしました。

**【質問内容】 ① 今年の抱負 ② 生きがいになっていること ③ 健康のために気を付けていること**

東沢地区 山口 堅吉 (庚辰)



- ①今年も会員仲間と共に 健康で働く喜びを！
- ②家庭菜園、溪流つり、山菜取り 自然を楽しむ
- ③食べ物に好き嫌いなし 犬との散歩一日四回

滝山一地区 佐藤 啓志 (庚辰)



- ①夫婦揃って足腰が元気なうちに、温泉旅行
- ②友人たちと、ゴルフをしながら親睦を深める
- ③外歩きをしながら、近隣の人と対話を楽しむ

第四地区 後藤 浩子 (壬辰)



- ①健康に留意し、笑顔で日々を過ごすこと
- ②小倉百人一首を毛筆で書く事に取り組み中
- ③朝、文翔館前広場で仲間とラジオ体操をする

第四地区 八嶋 國夫 (壬辰)



- ①今年は、近くの山歩きを再開したい
- ②生きがいは特になし 日々新しいことに挑戦
- ③一万歩/日以上を目標に現状達成率60%位

〔寄稿〕

笹堰 (ささぜき) 探索



南沼原地区  
成田 巖

現在の場所（南館三丁目）に住んで二十年ほどになります。我が家の南側境界線に沿って堰が流れていて、この堰は「笹堰」という名前で、馬見ヶ崎川から水が流れてくる「山形五堰」のひとつだと町内の方から聞きました。

幅五十 cm 程度のコンクリートの堰が繋がっているだけですが、

歴史的に貴重な施設が身近にあることに感動して、笹堰の全体を知るために、堰を目視で確認しながら馬見ヶ崎川の分岐点までたどって行ったことがあります。

山形五堰は、江戸時代から城下町の生活用水や農業用水として使われた水路で、現在でも市内に健在しているものです。有名なのは御殿堰で七日町の観光スポットになっています。他には双月堰や宮町堰・八ヶ郷堰があります。

笹堰は、枝分かれや目視できない地中區間も多く、ルート確認は簡単ではありませんでしたが、私が気に入った場所

入った場所



もありました。それは、小荷駄町の市立図書館あたりから鉄砲

町の光禅寺を経由して、第六小学校前を流れる区間です。

コンクリートではなく、昔ながらの石積みの堰が続いていて、最上家三代の墓がある光禅寺の墓地内の堰は、宗教空間での流れが、心休まる場所になっています。

健康元氣を目指して



滝山二地区  
北村 強志

シルバー人材センターに入会し、山形駅西口にある霞城センターに駐輪場にお世話になり六年目になりました。ボケ防止になればと思いだめた仕事でした。私の目標はゴルフでのエージシュート、自己ベストのスコアは八十二ストロークなので、後

十年先に自己ベストを更新出来れば達成します。

しかし、八十歳過ぎて年齢的にいかに健康的にプレーが続けられるかという事が、重くのかかって来ます。このためには、健康で元氣で毎日の生活を大切にして、ストレッチを欠かさなようにする事が大事になってくると思っています。特に足腰の筋力維持に役立つ「軽いジャンプ」百回を毎日。病気になるにくい体作りの為に睡眠時間は九時間が目標です。こんな事を続けていけば、介助されなくて、自分自身で食事、トイレ、お風呂を済ませる事に繋がれば最高です。又、誤嚥性肺炎の予防には喉仏体操や握力低下予防にはグーパー体操や道具を使ってにぎにぎ体操など情報があふれています。継続・継続！



# 多員の

## 健康・趣味

### マラソン



南沼原地区  
笹原 秀昭

中学校時代、陸上部に所属していたので走るのが好きで、十年前から山形県内の市町村で開催されるマラソン大会に出場することになりました。

思い出のある大会は、村山市の「最上川 smile マラソン」夏の暑い日でも川の近くを走るので下から吹き上げてくる涼し



い風を切りながら爽快な気分でした。  
また「寒河江サクランボ」では、ゲストのシドニーオリソンピック金メダリスト高橋尚子さんに思いもよらず顔を合わせたこと。  
山辺町の「星ふるロード」で、今までの最高順位の十五位になったことなど他にも沢山の楽しいことがあります。  
苦しいながらも完走することで、体力と精神力がついたようです。  
レース終了後ボランティアの方々が、おいしい芋煮などふるまってくれます。これも楽しみの一つです。

### 出合い



滝山二地区  
渡部 武三

これからは旅行を兼ねて県外とかホノルルマラソンに行く計画も立てているところです。

山形市シルバー人材センターの出会いは、写真愛好会の写友である高橋会長より写真の誘いがあり入会しました。

フルタイムの仕事を退職した年であり入会して二年になります。毎日野山へ撮影に出かけている頃に、現在の仕事をセンターより紹介され、二年になり二時間の短時間の仕事ですが、毎日の生活の中で良い刺激になっていきます。私の長年の営業のモットーであるお客様あつての仕事。短時間瞬発力で続けています。

出合いは趣味の写真撮影でも同じです。その場所場所で、光景・足元の小さな草花と出合い四季折々感動があります。会員の皆様もシルバー山形写真愛好会でご一緒に楽しみませんか。これから写真を始めたい人も会員がわかりやすく指導します。近くの自然にも花は咲いています!!



「春の日」(渡部さん撮影)



写真「ツーショット」  
葦王地区 高橋秀一



書「感謝の三字体」  
出羽・明治地区 植松ユキ



絵画「3.11」  
第7地区 齋藤 隆

# 誌上展覧会

～令和5年度文化祭出品作品の紹介～



手芸「パッチワーク・ホワイトクリスマス」  
第4地区 佐久間あや子



手芸「折り紙花瓶入れ」  
南山形・本沢地区 塩野美智子



工芸「1 文殊菩薩 2 普賢菩薩」  
第2地区 小林勝彦



盆栽～趣味の園芸～  
鈴川3地区 阿部一雄

# 就業会員を訪ねて

**平吹誠太郎 佐藤 敏行**  
雪囲い作業 (剪定班)

十一月初旬の小春日和に、雪囲いを行う「剪定班」を取材に飯塚町の依頼者のお宅に向かいました。

作業をしてい

たのは、リーダーの平吹さんと佐藤さん。竹と荒縄を使って庭木を保護する作業を、脚立を使って高木から低木まで、手際よく作業を進めていきます。

原則的には、ペアの五組ある剪定班が春から秋までに剪定で入った箇所でない、庭の形状がわからないので引き受けしていません。

作業の流れは、事前に事務局に依頼者から連絡を頂いて、十月末に班の調整会議を行い、縄の配布、雪囲い材料などの準備をリーダーが依頼者と打ち合わせをして作業日程を決めます。

作業時間は午前九時から

午後四時三十分(実働六・五時間)、土日・祝日は休日です。四月から十月までは剪定作業。十一月から十二月は雪囲い作業です。

平吹さんが担当する雪囲い作業は、二十軒程度です。天気の良い日ばかりでなく、十二月に入りみぞれが落ちると、作業は大変です。就業会員も総勢九名で減少傾向にあり、新規の会員がななく人手不足です。しかし依頼者がある限りは応えたいと、職人に引けを取らない作業ぶりでした。

(取材・広報部)



## 新入会員紹介

飯塚・榎沢地区	千歳地区	鈴川一地区	鈴川三地区	第十地区	第九地区	第八地区	西地地区	第六地区	第五地区	第四地区	第三地区	第二地区															
後藤恵津子	和賀成子	黒坂信雄	中村昭秀	鹿野和彦	横山明英	尾形仁	釜田信宏	石川美由紀	佐藤智恵子	鈴木正子	井上光機	吉野一郎	高橋和弘	貝和啓子	沼邊妙子	土屋喜久子	浅川進	渡辺はつ子	深田成子	安部成子	日下部美雪	大江久美子	安藤政儀	富田寿昭	曾我良雄	逸見フサ	藤原一雄
	南沼原地区			南山形・本沢地区		蔵王地区	楯山地区	山寺・高瀬地区	大郷地区	金井地区	出羽・明治地区		滝山一地区	滝山二地区	東沢地区												
鈴木長次郎	高野由美	高橋邦昭	小林鈴子	齋藤淳一	相馬栄喜	八幡光枝	金子武雄	塩見俊幸	齊藤カツエ	武田洋子	大久保愛子	斎藤昌文	進藤咲子	伊藤英世	草苺茂男	後藤基之	竹田芳明	海和賢市	黒田由美子	安食智	三浦美代子	茅原章彦	渡邊智子	星野義隆	岡崎順子	佐藤明美	堀川昭雄

# 事務局だより

## 新事務局職員紹介



嘱託職員  
藤田 彩佳

令和五年十一月より

(公)山形市シルバー人材センター

山形市双葉町一丁目二番二号  
電話(0)23(6)四七(一)六四七

URL: <http://web.sjc.ne.jp/yamagata-shi>  
E-mail: [yamagata-shi@sjc.ne.jp](mailto:yamagata-shi@sjc.ne.jp)

## 配分金Ⅱ所得税法上の取扱い

シルバー人材センターでご紹介する仕事には「請負事業」と「派遣事業」の二種類があり、そのうち「請負」で仕事を

等でご利用ください。  
また、「派遣事業」で就業して得た「賃金」は、「給与所得」として取り扱われます。山形県シルバー人材センター連合会より源泉徴収票が送付されます。  
『配分金』については、租税特別措置法第二十七条の「家内労働特別」により五十五万円の控除が認められております。配分金以外の収入がない場合には、基礎控除四十八万円を含めて百三万円まで所得税が課税されないこととなります。配分金の他に給与収入がある場合は、五十五万円から給与所得を控除した残額が特例で控除できる金額です。

## 公的年金に係る雑所得の計算

受給者の区分	その年中の公的年金等の収入金額(A)	公的年金等に係る雑所得の金額
年齢65歳未満の人 (昭和34年1月2日以後に生まれた人)	60万円以下	0円
	60万円超130万円未満	(A) - 60万円
	130万円超410万円未満	(A) × 0.75 - 27万5,000円
	410万円超770万円未満	(A) × 0.85 - 68万5,000円
	770万円超1,000万円未満	(A) × 0.95 - 145万5,000円
年齢65歳以上の人 (昭和34年1月1日以前に生まれた人)	1,000万円以上	(A) - 195万5,000円
	110万円以下	0円
	110万円超330万円未満	(A) - 110万円
	330万円超410万円未満	(A) × 0.75 - 27万5,000円
	410万円超770万円未満	(A) × 0.85 - 68万5,000円
	770万円超1,000万円未満	(A) × 0.95 - 145万5,000円
	1,000万円以上	(A) - 195万5,000円

また、公的年金を受給している場合は配分金とは別に所得控除が受けられます。公的年金に係る雑所得の算出は上記速算表のとおりです。  
なお、配分金収入、給与収入、公的年金収入以外の収入がある場合の申告については、別途書類の提出が必要となりますので、税務署にお尋ねください。

## お知らせとお願ひ



### 配分金支払日

- 一月十九日(金)
- 二月二十日(火)
- 三月十九日(火)

**入会説明会(午後一時三十分)**  
会員の皆さんからも入会の勧誘をお願いします。

- 一月五日(金) 十二日(金)
- 二月一日(木) 九日(金)
- 三月五日(火) 十四日(木)

**就業相談日(午後一時三十分)**  
(就業に関しての相談です)

- 一月十日(水)
- 二月十四日(水)
- 三月十三日(水)

※就業相談の受付は午後一時十五分からです。  
予約等はできませんのでご了承ください。

## 計報

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

- 南沼原地区 佐藤 貞夫さん(七十一歳)
- 出羽・明治地区 川合 諭さん(八十一歳)
- 第八地区 高橋 博さん(七十歳)

## あとがき

少子化による働き手不足が顕著になる中、高齢者の存在意義は益々高まります。一方、就業ニーズも多様化し、高齢者の就業意識も変化します。従って本SCもより魅力ある居場所になることが必要です。

就業での生き甲斐作り以外にもう一つの視点。それは会員個々の豊富な知識や人生経験、特技、趣味、人脈などを活かした社会貢献。同時に会員が学び成長出来るSCです。

芸工大による中心街活性化事業や商業高校の産業調査部など、それぞれの年齢層で活動する社会貢献があります。移住促進を目的にした他県からの地域おこし協力隊があるのなら、我々先住のシルバーによる同協力隊があってもいいのではないかと。つまり地域課題解決のブレンと成りうるSC及び会員力。会員の知恵やノウハウを課題ニーズに応じて結集し対応する市の公益ブレン集団の構築です。

上山SCが焼き芋クラブならば、山形はSC地ビール? そんな夢からほろ酔いで目覚めた、大晦日の夜でした。

(S・T)